

104106

旧番号

箱41(ラベル青)箱41-3(10029)

寄贈資料8
(吉野俊彦関係資料)

吉野俊彦の日記
(喜)
昭和十五年十一月

1-232

明治十五年六月廿九日ヨリ

明治十六年

同十七年

同十八年

鐵軒日記

第(朱)二十三(書)

十五年六月廿五日日本銀行創立委任

同七月十九日新家作市兵衛町江引移ル

十五年十月六日日本銀行副總裁

同年同日被免大藏大書記官

明治十六年五月十三日家君愛刀肥前
國忠吉午二歸ス

明治十七年三月十五日義男誕生

(欄外書込 十五年七月・十月・十六年・十七年上二〇)

明治十五年六月廿五日

出省

富田鐵之助

日本銀行創立委員申付候事 松方大藏卿

吉原少輔加藤権大書記官も同様被申渡

六月三十日 出有

(欄外書延年号上二〇)

七月一日出有造士義會例會あり○林子平遺書

著述ノ義あり右入費金立替ノ議ニ涉リ乙東

京書林ノ板権ニ成七八入費ヲ不要トノ議あり

リ扱今度林氏贈位之勅も亦同郷一般ノ榮十

ルニ遺書出坂ノ費用ノ他ニ讓ルも甚不本意

十レハ勢乙出金同求社ノ出坂ト一決ス○明

二日大蔵卿大坂出立ニ付送別ニ行中夜十時

過歸ル

七月二日 日曜 来客朝ヨリ夕ニ達ス ○堀越角次

郎村田来ル

七月三日 出省 大藏卿午後四時安着電報来ル

七月四日 出省 夕熱海ヲ訪フ 明日井戸位地替ニ

竹東京府ヨリ出役見分ノ事ヲたのむ仙臺岩

洲濱田姉さまヨリ書状到ル

七月五日 出省

七月六日 出省 午後ヨリ清水ヲ高田馬場ニ訪神

鞭目賀田同行ナリ 妻木頼黄米國行清水盡力

セシ禮也夜十時過歸ル

七月七日出省○日光神山德平来ル大槻修三林

子平遺書著述相談ニ来ル

七月八日出省

七月九日日曜来客終日無餘暇神戸ヨリ深澤来

リ正金銀行明日惣會ニ付誘引状来ル断リ不

参○水道井戸移シ方出来入費廿六圓餘也

七月十日出省
中村道太正金頭取
退ク小野老景カクル

七月十一日出省

七月十二日出省
大坂松方江書状出

七月十三日出省

七月十四日出省

七月十五日出省

七月十六日日曜三好天山来ル小野寺常右同行

至リ三好監物ノ次男ナリト言フ○川崎八郎

工門来ル○又深澤勝幸来ル

七月十七日出省村上清兵衛次男龜武ナル者来

ル岡澤宗十郎ヨリ書翰持考又出京途中盜難

ニ加、リ修行難出来ニ付帰縣ノ都合ニ付十

五月貸与ノ事申来ル出會間合候所頗ル輕薄

薄才ノ少年ナリ金五丹ヲ午へ遣シ右ノ事ヲ
芳賀清五文通ス

七月十八日出省

七月十九日出省本日市兵衛町新宅江引移ル末

夕金ク落成ニ不到大凡木造家作出采タルニ

付先ツカリニ引移リタル庭木ヨリ手傳等断

リ只竹村ヨリ三人井戸屋車屋西田萬賀各一

人ツ、受取祝義三十美ヨリ二十美ツ、夫々

江遣シ

七月廿日出省大谷ヨリ書状加藤ヨリ電信書状

到
ル

七月廿一日出省

七月廿二日出省

七月廿三日日曜夕刻川村海軍卿ニ行幸仙臺曰

屋敷地所復旧之義兼テ申立置候通り両々速

= 相はぶ以吳候様申し入ル

七月廿四日出省鈴木全武過ル廿二日病死本日

葬送ニ付青山ニ會入外務省書記官連中多分

會合入〇松隣兄ヨリ書状金七月雄也万江来

ル

七月廿五日出省

七月廿六日出省中村元雄ヨリ夕刻ヨリ横濱江

出ル明朝大蔵郷着ノ向也(迎カ)今村之止宿

七月廿七日朝五時大蔵郷着又富貴樓ニ會ス七

時ノ汽車ニ而歸京直ニ出省ス

七月廿八日出省

七月廿九日出省

七月三十日日曜

七月三十一日出省休暇中箱根江旅行ニ付六日

旬休暇届置ク

(欄外書込)

七月九日 / 上ニ井ノ末ル七月十九日 / 上ニ〇)

八月一日出省夕四時半汽車ニテ東京出立お纏
真男是志来ル慎太郎召連ル長谷川島蔵兩人
横濱迄来ル今村江一宿ス

八月二日朝六時横濱出立神奈川ヨリ馬車ヲ雇
レ小田原ニ夕五時着ス馬車雇切兩輛ニテ十
四也通常代價壹輛四月五拾弍ノレトモ旅行
人多ク故價騰貴ス小田原ニ十二時着之目途
十レトモ大暑且途上小石敷キ車行甚不速依
而五時小田原片岡ニ止ス

八月三日朝六時同所出立駕籠四挺ヲ厚充足(壯カ)ヲ

産止箱根ニ十一時安着ス真男事道中至而莊

健也お縫ハ馬車ニ何分軟頭痛ありて鉄ニ持

病トナリ着後平卧ス宿所ハ

安藤治五(エ脱カ)右門方アリ

右ハ先年金沢友人止宿ス(セシカ)セ事アリテ同人之

紹介ヲ以脇本陳石内弥平太周旋ヲ以取リ極

ム間敷八疊大疊貳間ニテ一日七拾五才ツ、

食料ハ費費拂ノ事ニ取極ム此行之諸入費ハ

結局ノ上追而記載スヘシ

會 俟

本日ハ平日ヨリ冷キノ方ナル由ナレトモ頗

ル清涼也極暑ハ十二度ニ至ル由也

八月四日箱根滞在昨夜ヨリ雨天終日濛雨又暴(暴也)

風強雨アリ

八月五日箱根滞在昨夜ヨリ之風雨終日不晴明

日帰京ノ心組ノ所此暴雨ニ竹出立見合ス涼

キニ竹袴ニツ、袖裾羽織ヲ用エ昨日石内弥

平太江東京土産トシテ單物一反代ニ外品々

贈リ遣候所右返禮トシテ鶏肉パンヲ贈ラル

八月六日箱根滞_二在終日風雨今日出立ノ所風雨

ニ付延引明日ハ是非出立ノ用意セリト遣_六

十五日ナシ置_ノ

八月七日朝三時箱根出立駕籠人足貳人定價九

十錢ハ増七十矣_ヲ約_ス急下_シ六時ニ小田原

ニ着_ス同所乗合馬車ニテ四時神奈川着四時

半ノ汽車ニ而帰京_ス半晴薄暑也

八月八日出省キントル散十包ヲお纏_ハ送_ル

八月九日出省片倉急ニ熊本鎮臺詰被命今日出

立也萬一朝鮮出張有之セ_フハ假_リ養子ニ

是志書出置クヘキニ付其旨直話リ吳侯様申
 南ルお縫ヘサフオ一反海苔等通運ヲ以送ル
 八月十日出有

八月十一日出有朝村田深澤来リ正金銀行ニ又

一難事起リ夕リ日中村道太頭取中朝吹英二

江生糸預リ証ヲ出其証書ヲ以同人外國人ヨ

リ十二万円餘借金有之所右預リ証貳重抵膏

ニ而己其品ナシ云々依之右所分方トシテ横

濱^江出張ス

八月十二日

八月十三日出省中村道太内借一件ニ竹横濱江

出張ス

八月十四日出省同断横濱江出向キ前日之一条

正金銀行内ニ而協義先ツ平穩ニ事濟セリ

八月十五日出省大暑

八月十六日出省午後造士義會臨時會あり夕六

時大雨大雷

八月十七日松方大蔵卿宅ニおゐて日本銀行内

會議あり三野村安田来り合議ス

八月十八日出省

八月十九日出省午後萬年會ニ於て此度朝鮮ニ

テ戰死セシ水嶋義一(元會藩也)前萬年會ノ書

記相勤タルモノ也一吊詞報告あり各遺屬^(族也)ニ

為見舞出金ス余壹月出し

夕剋神鞭目賀田相馬來ル身上ノ内話也

八月廿日朝松方大藏卿來ル堀越角次郎ヲ呼ビ

正金銀行内部組織様ノ内談ス終日在宿ス

○お常祖又三日目前病死今日葬送ト云フ金貳

内遣シ

八月廿一日出省

八月廿二日出省

八月廿三日出省

八月廿四日出省

八月廿五日出省 お縫(脚)白として長谷川半治ヲ箱

根出立廿七ル昨今鐵自身出張ノ申合ナレト

毛日本銀行設立方多端ニ付引放得急又脱長谷川

遣しス金六十月庫持遣しス○仙臺造士義入金期

日ニ付五十月さし出又段々立替ノ分七十月

義會ヨリ返入ス

八月廿六日出省

八月廿七日 日曜 来客多 終日在宿

八月廿八日 深川西大工町三井別荘 = 加藤安田

三野村余ト會ス 銀行定款ヲ議ス

八月廿九日 出者お縫箱根ヨリ出立

八月三十日 出者お縫無事帰ル

八月三十一日 出者

九月一日 出者

九月二日 出者 仙臺造士義會定日ナリ出席ス

九月三日 日曜

九月四日 出者

九月五日出省夜立田革来ル

九月六日出省帰途吉原ニ回ル同人昨夜箱根ヨ

リ帰京ス日本銀行入員ノ義ヲ進ム同人入ラ

サレハ組織中ニおゐて甚難ノ兆アレハナ

リ〇高崎正風ヲ訪ヒ御製ヲ大無齋叢書ニ掲

載ノ義ヲ打合ス

九月七日出省真沼出京ス

九月八日出省

九月九日出省

九月十日日曜日白洲村田ヨリ被招目黒村内田

屋ニ晝食ス

九月十一日出省本日日本銀行創立事務所ヲ永

代橋脇新堀町廿一番ニ移ス

九月十二日出省又新堀町ニ出張ス

九月十三日銀行事務所ニ出席ス

金五百円 朝比奈ヨリ更取

公債証書千円(額面)拂フ約速(東)ニ付右ノ

内ヨリ内更取也

金四百円 竹村武助江用立

林子平 明治八年十月十三日御會

御製

をすまれる世の中とてもうなはらの

ふぬのそなへを教へおきけり

皇太后宮御製

をこたらぬ海の固めに思ふかな

おもひはかりの人の真こゝろ

親子内親王 静閑能宮

さもあらぬ御代にもかぬて浪風の

立しむ時をなんきてしかる

九月十四日銀行事務ニ出

三野村安田ノ内話ニ今度大坂ヨリ来ル外山
 某ハ幹事選任ノ然ラシト曰ハル事務通達ノ者
 十々矣

九月十五日事務所ニ出白州退蔵村田一郎来ル

正金銀行ヲメ日本銀行ニ合（空也）ノ説在リ余カ

意見如何ト答曰日本銀行ノ組織未ク衆實也

又正金銀行ヲメ官ヨリ合（併也）閉説アリシ玉る

様ニ而ハ西行ノ為不可然先ツ暫ク捨置隨意

ノ説ニまかせ置ニ不然追而日本銀行ノ望ム

如ク所置センコト易々たり

九月十六日銀行事務所ニ出

九月十七日日曜朝寺嶋全公使ヲ尋又不在吉田

外務大輔ヲ訪ノ又午後吉田次郎ヲ尋（ヲ也）ム来ル

廿日支那江出立ノ由也、尤不在ニ付不違

大無齋全書第二編刻来ル大槻修ニヨリ遣シ

クル

九月十八日銀行事務所ニ出

九月十九日銀行ニ而重ナル株主二十名餘内會

定款ヲ極ム夜食事大藏御郷純造毛来會ス

九月廿日事務所^(所願)ニ至ル夜紅葉館ニおゐて大坂の

外山修ニヨリ被招

九月廿一日事務所ニ出今日ヨリ内規編制ヲ初

ム

九月廿二日事務所ニ出昨日と同断

九月廿三日秋季皇靈祭也

朝松方大蔵卿宅ニ出○横濱原善三郎来ル

九月廿四日日曜三野村安田ト共ニ吉原宅ニ會

シ定款ヲ議シ并テ雇入人数ヲ定ム

三條公恭ニ行相公ニ千古獨見之揮毫ヲ頼ム

林子平全書之題字也○明月院ノ山内陸州来

ル

九月廿五日事務所ニ出

九月廿六日同断

九月廿七日 朝松方卿之宅 = 行キ創立方之内話

同卿今夕出立郡山 = 出張又事務所 = 出夕刻

帰ル

九月廿八日 事務所 = 出

九月廿日 事務所 = 出 昨日花房朝鮮ヨリ帰朝 =

竹一寸尋又ル

九月廿九日 事務所 = 出

九月三十日 同断

(欄外書込 九月十日 九月十九日 九月廿一日 / 上 = 〇)

十月一日 日曜 昨日ヨリ雨天 本日風雨甚烈シ終

日在箱

十月二日同断

十月三日同断 帰途吉原ニ立上リ頃日之事務ヲ

談ス

十月四日事務所ニ出

十月五日同断 明日御用有之候間参官之様大

政官ヨリ申来ル

十月六日朝十時禮服着用参官候所左ニ

大蔵大書記官 富田鐵之助

日本銀行副總裁被仰付候ニ付被免本官候事

十五年十月六日 大政官

從五位 富田鐵之助

日本銀行副總裁被仰付候事

十五年十月六日 大政官

右兩条 = 被仰付候直 = 宮内省 江罷出御禮申

上ル帰途吉原宅 = 参り前条吹聴ス同日吉原

ハ總裁 = 被仰付候病キ = 竹名代ヲ以拜受ス

大藏省 = 行キ日本銀行委任用業マテ前同様

可御心得ト相申付丈ヨリ事務所ニ来リ一同

二吹聴ス又大藏卿ヨリ達ス二

總裁月給

三百円

交際費

百円

副總裁

貳百五十円

交際費

百円

と相定夕旨申来ル

十月七日

十月八日

十月九日

十月十日 日本銀行休業 又夜松方大藏卿山縣参

議ヲ銀行ニ招キ晚餐ヲ供ス其来答ハ銀行関

係ノ者惣人数二十三名也四五日已前銀行事務尤多端也

十月十一日出勤ス朝松方大蔵卿宅ニ行き昨夜

来臨ノ禮ヲ述ブ

十月十二日銀行

十月十三日朝大蔵卿夫ヨリ銀行

十月十四日銀行

十月十五日日曜朝大蔵卿宅ニ被招大坂支店設

置ノ内話アリ○午後紅葉館ニ被招銀行集會

所ノ秋季親睦會ナリ

十月十六日 銀行夜大坂外山松本草間庫送別深

川平清 = 招ク大蔵御も来ル

十月十七日 銀行外山葦三名ヨリ被招濱町花屋

敷五行ク

十月十八日 銀行

十月十九日 同断銀行花房ノ厚祝宴ヲ九段遊就

館 = 用ク會費貳月ヲ持参ス来客多キ故食堂

= 不入帰ル

十月廿日 銀行出勤

十月廿一日 同断

十月廿二日日曜朝松方卿江行き銀行内部ノ事

ヲ閑談ス

十月廿三日銀行

十月廿四日全

十月廿五日全

十月廿六日全

十月廿七日全

十月廿八日全仙臺親睦會あり事故あり不参

十月廿九日日曜原亮三郎色川(空包)来ル三好紹介

予リ何モ日本銀行株主也

松方大蔵卿ヲ訪

不逢雨天雷鳴

十月三十日銀行

朝大藏卿ニ行キ安田内意三百萬内借用之事

ヲ申入ル

夕原亮三郎色田平兵衛来ル晩食ス

十月三十一日ヨリ至十一月四日書齋ニ階ヨリ

下ニ移シ此間筆硯不調日記ヲカク

(欄外書込 十月六日同日副總裁十月十日、上ニ〇)

十一月五日日曜朝午駄ヶ右徳川三位殿帰朝臣

トシテ見舞〇勝先生ヲ訪〇土子村田深澤鈴

木大亮等来儿

十一月六日 銀行

十一月七日 全

十一月八日 全 造士義會ニ友ヲ招キ對酌ス来

友鈴木大亮佐和横尾熱海田邊實明大槻兄弟

大槻直信松浦玉甫高橋七三郎田邊石森合計

十三名也佐和ヨリ梅園雪夜ノ景伊州春雨之

二幅ヲ被送

十一月九日 銀行

十一月十日 銀行帰途吉原ヲ尋病尚未諭(癒之)

十一月十一日 銀行午後勝海舟先生并北岡文兵衛

衛来ル

十一月十二日 銀行午後佐和鈴木集會林子平祭

典ノ内談ス

十一月十三日 銀行

十一月十四日 全

十一月十五日 全真男袴着初

十一月十六日 全真男袴着祝義ノ為ノ紅葉館ニ

お取乙祝宴ヲ開ク来客左ニ

橋本綱常姉夫

全澤良齋

杉田四名

福澤姉夫

澤田姉夫

今泉おとふ

勝奥方

小鹿姉夫

乙骨

十一月十七日

十一月十八日

十一月十九日 日曜 真男袴着 兼乙新宅出来ノ厚

ノ町内知人 仙臺書生 大工職人 等九七十餘人

ヲ招キ 祝宴ヲ開ク 太神樂(一)ヲ招キ 十見書生

付ノ

十一月廿日 銀行夜深澤来 ✓

十一月廿一日 全

十一月廿二日

十一月廿三日 新嘗祭 午後大蔵卿宅 江招カ ✓

同席加藤齋三野村利助安田善次郎外山修造

也共二十五国立銀行廢止華族ヲシテ日本銀

行江加入セシムル手段ノ内談ヲ得夕リ晩食

後歸ル○本日来客ハ目賀田福井信岡崎賢守

長石織之允徳田某等ナリ

此頃日記ヲ

(欄外書込 十一月十五・六日十一月廿三日上二〇)

十二月三日朝来客夜讓堂公来ル公身上ノ内
話あり近頃伊達家維持ノ如何ヲ隱然苦慮中
ノ所ナレハ大ニ維持ノ端緒ヲ閑カントス

十二月四日銀行夜蜂須賀ノ招きニ而平清ニ宴

又阿波八十九銀行頭取山田樂紹介ノ舞ナラ

ン宴中ニ都以中部露中ノ歌あり余初之レ

ヲ聞ク以中節ノ名ハ此以中ニ初ルト見ユ

○大條姉様出京ス

十二月五日銀行午後造士義會臨時會ニ而小圃

虎四郎ヲ駒場農学校ニ指入ル、コトヲ決定

ス○鈴木大亮佐和正来リ伊達家ノ事ヲ内議

ス

十二月六日銀行 安田善次郎 别郎ニ茶會ニ招

カル

十二月七日

十二月八日

同日 九日 日曜 ○松平正直 寿ト忘年會ヲ日本

橋 柏木ニ出ク

同日 十日 銀行 ○午後佐和鈴木大来ル

過日來讓公ヨリ内話ノ伊達家内事ヲ右兩人

ニ内談ス第一着ニ伊達家會計ヲ調直次ニ讓

公身上ヲ獨立サセ而メ^{シン}主公一家ノ維持方ヲ

定ムル見込余ト同論ナリ夜ニ入り讓公來ル

相共ニ同論ナレトモ同公ノ意ハ當主ハ愚菊

公ハ多才共ニ一家ノ維持甚至難ヲ論ス然ル

ニ此大事ニ至リテハ決テ同意スヘカラズ

十二月十一日 銀行

十二月十二日 銀行〇大蔵御ヨリ明日郵便ニテ

大坂江出帆セヨト命アリ十五日支店開業ニ

竹三野村小安出立ノ筈ナリ加藤モ同様ナル
 ニ同人急ニ出張見合セ郷純ニ妻ル因テ僕モ
 亦急ニ出張ノ事ニ決セラル大原ニ行キ右ヲ
 傳ヘ支度ス

(欄外書込 十二月十日 上ニ十五年ト記ス)

明治十六年二月廿八日

銀行江出夜渡邊幸兵衛来リ竹内壽貞帰郷ノ

内意アリ家計ノ為メ然ルヘカラス西親ヲ東

京ニ登スル方ニ盡カセヨト内話アリ

過ル廿六日從五位公(東基)ヨリ夕メ又リ

懸ケ硯箱(御道具ノ由也)一筒(筒也)ヲ賜フ右禮

トテ愛宕御邸ニ罷出

大無齋全書壹帙ツ、岩倉三條西大臣三條公

恭高崎正風ニ贈ル宮内省江ハ鈴木大亮ヨリ

献上ス

三月一日降雪日本銀行出勤

三月二日雨雪同断出勤午後四時ヨリ松方大蔵

卿宅ニ會合來負井上外務卿郷純造吉原重俊

加藤瀧ト余也國立銀行發行紙幣所分ノ議也

内決ハ準備金八百万圓ヲ日本銀行ニ預リ右

ノ利金ト各銀行利益ノ貳錢五厘ヲ以テ消却

詔ルニ定ム次ニ正金銀行ヲ日本銀行ニ所分

ノ議案也僕ハ初メヨリ合併不同意也粗余力

論ニ一決ス

三月三日土曜兩銀行出勤午後造士義會ニ出涌

谷鈴木保吉當野学^(マ)学^(シ)本部ノ生徒ナリ貸費ヲ
請フニ付衆議許可ス

三月四日日曜松代六十三銀行役人菅春風ナル

毛ノ来ル立田革ノ紹介ナリ地方存替引受度

云々ナリ夜早矢仕有の来ル貿易商會ノ紛云^(紛)

ノ事也

午前吉原ト竹内壽貞ヲ尋又

三月五日銀行〇夕刻安西徳兵衛来ル又小野寺

常沼村田文造。連レ来ル村田文蔵。八村田^(空)

之縁ノ由茶園四丁步程所持ニ付制茶^(製)存修行

京師江登ル由也○菊地幸一ヲ第七十七江入

ル、事ニ申遣置候所断リ申来レリ菊地ノ事

佐和ヨリ頻リニ依頼之所仙臺人中ニ評判何

分不宜人物ニ而誠ニ困ル

三月六日銀行午後今戸伊達從ニ位殿ヨリ被招

仙臺家之事維持之内談あり

三月七日銀行午後岩倉ノ山本鴻一ニ立上ル岡

崎賢守ノ身本被閉合取調申遣候事ニ約ス

大西松園ヨリ主人伊達宗城ヨリ用事有之故

来ル九日午後五時佐和正鈴木大亮一同同候

候様申来ル

鈴木大亮竹内壽貞来ル

三月八日銀行夕刻竹内壽貞宮城縣衛生課長

(空)

同道ニ而來ル造士義會ノ事ヲ批ス

金沢ニ近來ノ様子診察ヲ乞フ運動不足ナル

由也

伊達從二位殿ヨリ明日ノ招キヲ来ル十四日

午後五時ニ延引申来ル右ヲ佐和鈴木西所ニ

相通シス

三月十日銀行午後ヨリ北岡氏ノ別荘ニ觀梅永

代ヨリ舩ニ而午後一時発ス同行三野村、安
田、子安森村也夜七時過帰ル

三月十一日日曜三野村安田北岡森村と申合川

崎在小向村ニ梅ヲ尋又同所ハ近年成嶋柳北

新聞紙ニ掲載ヨリ人々梅林アルヲ知ル所至

リ因テ余輩亦今日此地ヲ尋又川崎川上十丁

餘ノ所之村落ニテ農家梅子ヲ産スル為メ培

養ノ梅林ナリ杉田ト同一轍ナレトモ村落ニ

高低ナク又梅樹モ年ヲ経タルモノニ非ナレ

ハ杉田ト同等ノ地位ニ登ラズ小向村ヨリ川

ヲ渡リ蒲田山本ノ梅ヲ一見又汽車ニテ四時
頃歸ル

三月十二日銀行

三月十三日兩銀行夜ホイテ子一乗ル○加藤宅

ニ波澤榮一三野村安田ト會ス国立銀行發行

紙幣消却所分内議ス

三月十四日銀行

讓堂公ヨリ御書翰ニ余鈴木大亮佐和正同行

ニテ今戸町伊達從二位公御邸ニ可罷出旨御

下命ナリ依之御指示ノ時尅罷出候所野村ト

佐藤素拙も御召ナリ從ニ位公讓堂公御列座
 僕等一同ニ兩公ヨリ御談ノ大意ハ維新後伊
 達ノ御維持ニ付樂山公御苦心ヲ以御經濟向
 一切素拙ニ被托候所今日追ノ或行頗ル其當
 ヲ得タリ然ルニ兩人共追々老年ニモ相成候
 故尔後ノ目途ヲ立ルコト尤緊要ナリ然ルニ
 仙臺表旧臣等ハ佐藤等之所存不服ヲ唱フル
 臣ノ多シ萬一モ同人等不慮ノ事等相生シ候
 ハ、種々離間ノ策ヲ入ル、者ナシトセズ之
 レ等ノ豫防尤大切也扱足下等三人ハ仙臺出

身中地位ヲモ又人望も家産も他ニ比スレハ
 一等ト云フ可依之今托スルニ伊達家ノ財産
 ヲ明瞭ニ開キ置キクレヨト云々之御懇談十
 リ餘等無異義御更ヲ申述退出セリ

三月十五日銀行

午後鈴木佐和申合三十間堀佐藤方ニ参リ昨
 日御内談ノ一条如何可得心哉ト申入ル當人
 曰ク讓公御配慮ハ御旧臣無根ニ騷キ立豫防
 御依頼ニ相違ト奉存故宜敷盡力アリタシト
 乙金錢出入帳簿ノ一二ヲ示シタリ現今(昨

年迄一に金二十万月也其他大体ノ要領ヲ得

先ノ帰ル

三月十六日銀行大蔵省江出

午後青森の廣澤安任来ル夜ニ入帰ル

三月十七日銀行帰途三野村ヨリ茅場町大極屋

ニ被招晝食ス

三月十八日日曜朝吉原宅飯田三野村安田ト序

替方午續キ相議ス

午後ヨリ渡邊幸兵衛ヨリ被招上野ニ遊フ同

行竹内兄弟ナリ

夕松方ヨリ被招小西来リ夕（三）リ故也

三月十九日銀行〇午後浪澤ヨリ被招八百松樓

ニ會ス夜九時帰ル三野村子安同行亀井戸ヨ

リ卧龍梅一見ス

三月廿日銀行〇午後廣澤安任紹介トシ乙地岡

ヲ柳橋増田屋ニ出會ス此日朝ヨリ雨雪夜ニ

入り増甚スシ

三月廿一日春（季也）期皇靈祭也雪晴仙臺親睦會ニ竹

西國中村樓ニ會ス帰途讓公鈴木岡等ト賣茶

亭ニ晩食ス

三月廿二日 銀行

三月廿三日 銀行 佐和と三十間堀ニ申合又佐藤

不在不逢 野村宇成ヲ訪フ老衰ノ伊達家(三ノ)後來

之事共談スル能ハス○夜讓公來ル

三月廿四日 銀行 佐藤素拙來ル伊達家ノ内狀ヲ

談ス

三月廿五日 日曜 兩午前松方卿ノ宅ニ吉原飯田

同行ス國庫為替取扱ノ義頃日來内評之所先

來六月迄延期ニ決ス

午後讓堂公ヨリ梅宴之御招也佐和鈴木岡大

文横尾等也雨中觀梅ノ(興也)狂十キモ旧懷談維新
前後ニ及ヒ頗ル面目ニ夜十時過歸ル

三月廿六日銀行帰途茅場町七十七銀行奥間ニ

佐和鈴木會し過日來野村と佐藤ニ出會ノ景

況ヲ談シ佐藤事伊達家ノ家産私名ヲ以テ維

持スルノ不策ヲ断然改正ノ策ニ内決ス

柴田隆出會内情ヲ聞カン為メ同人呼取ルニ

一決ス

三月廿七日銀行夕渡邊幸兵衛竹内壽貞立花良

次來ル

三月廿八日 銀行夕讓公被来

三月廿九日 銀行小野請来ル 衛生私立會々員募

集ノ相談アリ

三月三十日 銀行午後竹内午之助百日祭ニ付番

町竹内雄平方ニ被招来客ハ旧友木村等三四

名也竹内午之助ハ旧友也年廿五歳初テ江户

ニ遊ヒ羽倉林大学頭等之熟(塾也)ニ入り漢書ヲ学

ヒ志國事ヲ憂ヒ同藩中(至)ノ友也維新ノ時

藩ニ登用セラレタルニ維新ノ事業成ルニ從

ヒ却而世ヲ喜ハサレトシ、如ク益々酒ニ耽

リテ仙臺ニ在リ旧友等ト交ヲ絶シ終本年病ニ死ス

三月三十一日銀行午後三十間堀ニ行

佐藤素拙ニ密談ノ件左ニ

讓堂別家ノ件

右ハ余近頃頻リニ按ズル別家ノ企尤上策ナ

リ先日御内話モアリタルハ此義ノ周旋余ニ

托サルヘシト云々又伊達家(狀)在産名義ヲ改メ

ヘキ事ヲ申談ス素初メハ頗ル(空白)氣ヲ直メ世(マニ)

間ニ其評ヲ得ルハ甚心外ナリ伊達家興敗ノ

係ル所一身ノ血涙ヲ（至色）リ今日迄ノ事務ヲ所
 スルニ私心トノ評議ヲ得ル頗ル遺憾ナリト
 右談話ニ付其精神ハ賛成ナレトモ一箇ノ私
 産ト厚ス置クハ（至色）儉之レヨリ大ナルハナキ
 ノ條理ヲ覓得スタルコト追々内心ヲ吐露シ
 若産名ヲ改ムル時ハ他ノ如何ノ麦起ルヤ若
 一朝此變動ニ逢フ時ハ事ナラサルコトヲ恐
 レ私産ト（マ）メ以其災ヲ防禦スルノ見込ナリト
 去フ因テ産名ヲ改ムル一策ヲ確定シ而（マ）メ以
 産名ヲ改ムルコト良策ヲ立ンコト申諭ス不

日又其良案ヲ再議セント相別ル

(欄外書込) 三月二月三月十三日三月廿五日三月三十一日上二

〇)

四月一日日曜鈴木大来ル昨夜ノ内誤ヲ申聞セ

夕リ〇午後讓公海舟先生ヲ尋又

四月二日銀行

四月三日大祭日三野村小子地岡森行同行ニ而

鴻ノ臺ニ遊フ帰途雨ニ逢フ

四月四日銀行小西新右門ヨリ被招築地隅屋ニ

飲ス

四月五日

四月六日 銀行第四十五銀行營業甚困難ニ赴キ

不日 鎖店ノ命也トの風評也前頭取朝比奈一

ノ失策其重ナル部分ナレトモ亦弥鎖店ニ至

ニナラハ當人ノ英譽ニモ抱ハルコト判然ナ

ル故先古銀行維持ノ法(方法)ヲ建ルコト今日急

ナルニ竹相馬神鞭ト其恢復ヲ議ス昨日ヨリ

西人其頻リニ余力方ニ乘リ相議ス

四月七日 本日午後紅葉館ニ仙臺造士義會々員

ヲ招キ酒ト飯トヲ進ム末會ハ讓堂公初メ四

十三名也夜ニ入り各歡ヲ盡シテ歸ル

四月八日日曜日但木七峰法事ニ付東禪寺ニ被招

頃日來立花(堂)ハ良次出京ス故ニ取越ニ此

法事ヲ企○福澤ヨリ被招

四月九日銀行午後吉原私宅ニテ晚餐小西新右

工門不日帰縣ニ付送別ノ内意也來客ハ大藏

御初大藏者連七八名其餘銀行連也○仙臺遠

藤敬止ヨリ書状來ル佐久間健治事申來リ銀

行ニ周旋調フ

四月十日銀行庭前櫻花開

四月十一日銀行午後嬉森八百松樓 = 原方郎曰

り被招夜帰又向嶋三浦乾也佐和正ヲ壽又

四月十二日銀行

四月十三日銀行午後ヨリ水産博覧會ヲ上野公

園内 = 見物又此日櫻花真盛ナリ夫ヨリ佐伯

惟馨大谷靖ノ招キ = より池の端茅町 = 丁目

九番地吉川ノ別邸 = 會ス来負大蔵卿初ノ六

七名也夜十二時過帰ル

四月十四日銀行竹内雄平来リ壽貞留宅始末

ヲ談ス又仙臺ヨリ壽貞安着老人残命ノ由申

来ル

四月十五日日曜日神鞭相馬等来ル第四十五銀

行維拵方也其他終日来客アリ終日雨天

四月十六日銀行夜伊達賢孝来ル同人ハ宮床ノ

嫡子十レトモ妄腹故満勝寺ニ入り僧トナリ

明治ニ三年還俗其後所々浮浪ノ徒トナリ俳

徊ノ由也先日摺澤静夫ノ紹介ヲ以来ル當時

飯田町邊ノ金玉治板社ニ在ルト云フ

四月十七日銀行午後佐和正宅ニ觀花の宴アリ

被招讓堂公初メ岡千仞等四五輩来ル夜向嶋

堤上月下櫻花ニ属ス夜十二時頃帰ル

〇ミスセスホイトニ一頃日來病ヤの祈大切

ノ様子ト勝先生ヨリ使へ来ル

四月十八日銀行ホイト子一夫人昨夜七時過病

死ノ由也朝同人宅ヲ見舞葬送等之事助ケ萬

事傳田仙ニ批ス午後又々同人宅ヲ尋ヌ〇四

十七銀行營業停止ノ下命已來惣株ヲ纏メ維

持ノ事ニ朝比奈相馬等ト十餘日間盡力ノ所

両長今夕来リ告テ曰全ク事就リト先ツ一ト

安心也明日神鞭ヲ呼トカ大蔵卿ニ内報ノ事

二取極ム

四月十九日銀行ホイトニ一華送ニ行き五時帰

ル○与倉守人ヨリ庭園觀花ニ被招来峯ハ松

方大蔵御郷純造安藤就高加藤瀧等也

夜十時頃帰ル

四月廿日朝大蔵御宅ニ行き四十五銀行株券全

数取集メタル内報又安田ト計リ淡澤ト右維

待再（登色）ノ内談又明廿一日銀行集會所委任等

ト内評廿三日臨時總會ヲ初ムルコトニ内約

又帰途安田ト同ク加藤方ニ行其ノ事ヲ内話

又同人去フ當時他ニ停止ノ銀行モアレハ傳
 止ヲ又々取消様ナレハ外々ノ例ニモ可相成
 ニ付甚夕夏合難シト余竊ニ思フニ停止ヲ止
 ムル之類例ヲ生セシムル事可喜事ナラズヤ
 君子ハ改過ヲ以テ羞ツ可ニアラズ然レトモ
 今此言ヲ吐露セハ事瓦解ナラント默^{コソ}ノ帰ル
 俗事奔走ノ苦慮此類多シ可歎可愁可愁

四月廿一日 銀行

四月廿二日 日曜

四月廿三日 銀行

四月廿四日 銀行

四月廿五日 銀行比夜横濱外國銀行頭取等相招

中銀行ニお為て晩食ス但シ来ル廿八日閑業

式ニ付爰ニ及フ

四月廿六日 銀行大蔵省奏任已上御用懸マテ七

(係也)

十五名ヲ銀行ニ招キ晩食ス

四月廿七日 銀行明日閑業ニ付其準備ニ而混雜

極ル○大蔵省江出頭國庫金取扱ノ命令ヲ更

フ

四月廿八日 日本銀行閑業式○飯田巽事理事被

命

四月廿九日日曜也昨日閑業式ノ跡片付ノ為メ

銀行ニ出大蔵御禮ノ為メ見舞

四月三十日銀行常勢ニ取付

(欄外書込) 四月十八日四月廿日同日文言「瓦解」四月廿八日

上ニ〇)

五月一日銀行

五月二日

五月三日

五月四日

銀行

五月五日

五月六日日曜二子村亀也二行夕一泊又同行真

男お縫下女共書生五人也書生ハ其日ニ歸ル

五月七日午後二時半出立ニ而歸京又二時半(面腹)ニ

テ歸ル

五月八日銀行

五月九日銀行

五月十日銀行午後王子浪澤村莊ニ被招夜十時

歸ル

五月十一日銀行夜讓堂公ヨリ参上又一件返延

二付催促ナリ

五月十二日兩如梅天銀行國立銀行條例改正ニ

竹右取扱命令大蔵卿ヨリ下ル〇七十七銀行

ニテ佐和ニ會ス讓公一条ヲ三十間堀へ促シ

方内議明日佐和先方江出張ノ筈也〇渡邊幸

兵衛出京相會ス竹内ヨリ書状持参細谷ノ事

申来ル〇竹内妻病キニ竹仙臺ニ下シ度ト内

々留宅ノモノヨリ申来ル明日渡邊ヲ呼ビ

内談セントス

五月十二日銀行兩晴外山脩造ヨリ被招日本銀

橋

柏木亭 = 會ス

五月十三日日曜朝比奈相馬来ル 四十五銀行改

正總理代人相立タル旨申来ル

廣澤安任同道ニ而松方卿ヲ尋ヌ

○ ^(室) 林子平 幅物持来ル 價五十圓十

リト云フ

○ 渡辺幸兵衛来ル 同人曰ク君家ヨリ出タル

備前國忠宗ノ刀ヲ得タリ 近日之幸便ヲ以テ

登候者ナレハ進セントス ト此刀者先君秘蔵

セラレ 富田家ノ寶ト存スヘシト兼テ申居ラ

レタル銘刀ナリ先年小五郎ニ尋タルコトアリ
 同人家ニ蔵スト余更ニ不信他ニ發見スル
 トキ者入手セント兼テ心頭ニ懸ケタルニ豈
 計ンヤ今已ニ余ニ歸ル欣喜無窮

五月十四日銀行帰途安田ノ宅ニ被招晚餐ノ馳

走アリ歌舞アリ鉄五郎ノ義太夫某舞等精妙

ナリ

○飯田月給ノ外百日増額ニ付監事ノ不同意

アリ正論ナリ今日右ノ事由北岡ヨリ内話也

頃日理事監事等相會シ右ノ事ヲ議セシト見

工又文書局ヲ國庫局ノ初メ元置タルト不

備ト見工余ニ右局長ヲ退ヨトの内意ナリ

○米園4ヤ1ヶ江返書出ス

五月十五日銀行帰途勝先生ヲ訪フ

五月十六日銀行

五月十七日銀行午後飯田巽之招キニテ中村樓

ニ會ス

朝佐藤素拙来ル曰ク今日佐和来ル由傳言ア

リ讓公ノ事ナラン是非同席ヲ頼ムト余本日

ハ前約アリ難諾ト答フ且佐和ノ意如何ニア

ラシモ面會兼ル方可然ト尚明朝立より其意

ヲ南カント云フテ返ス

五月十八日銀行朝佐藤素拙方ニ立より佐和昨

日内話ヲ南リ帰途七十七ニ立より佐和ニ出

會昨日ノ模様也南台明十九日佐藤ニ立より

事ト定ム

五月十九日銀行〇三十間堀江佐和と相會シ讓

公別家周旋ノ内議ヲ初ム

五月廿日日曜朝松方大蔵卿ヲ訪廿三日上坂出

立延引ノ由故用向ヲ不談引取ル〇宮城縣書

託官安達某并一華屬來心其外終日來客了

り○松倉江協平身上周旋一禮申遣

(三招歴)

五月廿一日銀行午後左一人員ヲ紅葉館キ酒ヲ

進山

松方大藏卿

郷純造

加藤濟

吉原重俊

浪澤栄一

原六郎

川崎八郎工門

外山脩造

安田善二郎

三野村利助

小安峻

森村市太郎

地岡文平

並木時習

飯田巽

夜十時過何レモ無事ニ帰ル

五月廿二日銀行佐和來ル申合ノ上讓公ニ謁ス

段々盡力中ニ在ル別家方相話シ來ル廿六日

夕伊達從ニ位公宅ニ被招前条ノ一義口述ノ

初トセ

五月廿三日銀行終日來客至シ竹内齋貞江書面

認ル同人妻病氣ノ寢体細谷ノ事也

五月廿四日銀行午後段家半人來ル同人ハ元名

秀之進十リ當時七十七銀行取締リナリト云

ノ老人ニテ當世之事情如不辨様ニ見ユ

五月廿五日銀行午後土子水野來ル土子ノ談森

有禮ヨリ預リ金世話致居ル所一名ニ心配ナ

（子ハ腹也）

レハ加名致矣ヨト云余諾ス

五月廿六日銀行午後佐々木本文来ルト野寺常

治長女ヲ臨時依托ノコト申演ヲ當分女衆多

ニ付来月お常帰家後ニ可相談ト申遣シス今夕

伊達従二位公ニ被招候風氣ノ由ニ而相断

五月廿七日朝大藏卿宅ニ行キ銀行

五月廿八日日曜枝谷謹太郎ヲ尋桑港ノ新井常

之進所在ヲ尋ヲ〇勝先生ニ行キ夕刻帰ル

五月廿九日銀行朝大藏卿ニ立ヨリ百萬円政府

江用立金ノ事ヲ議ス○夜神鞭来リタンカン

セルマンノ破産件終決ノ相談ス○文晁圖畫状

四本三月八十錢ニ而西田ヨリ求ム

安田曰茅四十五之方株券集合ト三重縣新南

社壹万円貸金無利足十ヶ年賦南濟ヘキニ竹

借主清水ニ立クレ候様申用ル相馬ヲ呼右相

談ス

五月三十日銀行松方大藏卿下坂ニ付横濱来て

送ル夕六時ノ汽車ニ帰ル○富田協平芳賀清

右卫門ヨリ書状到ル清右卫門ヨリハ金子早

クモライ度由申来ル

五月三十一日銀行終日無来岩

(欄外書込) 五月十三日上ニ「〇」
富田家ノ銘刀已ニ手中ニ

帰ス「五月十四日上ニ「〇」
五月廿四日上ニ「本日八日替四

月十八日也母公十七日御忌ナリト記ス

六月一日銀行〇午後伊達宗城公讓堂公銀行江

被来佐和也来訪讓堂公別家并ニ伊達財産所

分方内議入鈴木者行違ニ出席セ入

六月二日銀行午後造士義會例會ニ竹出席入

昨日伊達老公と協議伊達維持方佐藤江申談

方内議ノ辱ノ隅屋ニ會ス鈴木佐和横尾等ノ
六月三日日曜也松本莊一郎ヲ訪シ金澤病床ヲ
尋ヌ

六月四日銀行竹内雄平ヨリ父有定昨三日病死
ノ報來ル

六月五日銀行四十五銀行再興事件中桑名日報
社ニ負財ニ關シ安田江内談ノ事ニ竹清水篤
守金五十月持考ニ付直ニ安田善次郎江相渡
第三銀行ヨリ相馬永胤宛ニ取証書ヲトリ
同人江渡ス三ヶ月定期預リ九月五日迄存リ

尤無利足なり

六月六日銀行午後三十間堀ニ佐和鈴木横尾ト

相會ス伊達財産所分ノ佐藤江談ス余輩内議

ノ通り佐藤策托ス(諾カ)

六月七日銀行午後鈴木宅ニ集會伊達家政規定

ヲ編ム

六月八日銀行

六月九日銀行午後有栖川宮英國ヨリ御帰京ニ

付御機窺(伺)ニ参上又福澤子供西人不日米國江

留学出立ニ付見舞フ○米國々々一々并ニ干

1 口ル江写真一閑張等遣し森村之便ニ托ス
 六月十日日曜松本鈴大同行ニ而鐵道新築見物
 ニ熊谷驛ニ遊リ同所ニ者毛利重勝工事長ニ
 而在勤ヌ朝四時出宿上野下鐵道局出張所ニ
 待合セ六時半押車ニ而川口ニ九時着夫ヨリ
 土砂運送汽車ニ乘リ十二時熊谷ニ着同所荒
 川ニおゐて鮎獵見物三時半出車八時上野迄
 還ルガニ鍋ニ而晩食十時宅ニ歸ル汽車道熊
 谷ト川口ノ間全ク落成川口ヨリ東京ノ間小
 橋兩三所未成七月下旬ヨリ営業ニ可至模様

有り

六月十一日 銀行午後伊達家改革之事ニ付隅屋

ニ鈴木佐和横尾ト會ス

六月十二日 銀行午後紅葉館ニ於テ氏家半人ヲ

送別ス亭主ハ讓公佐和鈴木田邊實明等アリ

六月十三日 銀行鎌倉建長寺山内陸州ヨリ巨福

讓下調書類相談夏居ル所本日先方ヨリ役僧

来リ相渡返付ス

六月十四日 銀行

六月十五日 銀行

六月十六日 銀行

六月十七日 日曜 午後ホイテニ 竹内 兩家 江梅

ニ行キタリ

六月十八日 銀行

六月十九日 銀行 午後 佐和 鈴木ト申 合宮 城縣書

記官ヲ 警視聽前ノ 弥生社ニ 招キ 又長蛇亭ニ

おゐテ 晩食ヲ 出入書記官 和達ト一 茅屬早川

某アリ

六月廿日 銀行 午後 高力 衛川 来ル 同人ハ 當時午

葉縣ノ一 茅屬 勤務アリ

六月廿一日 銀行吉原安田三田大坂江出發又横

濱 = 送ル ○ 四十五銀行鎖店解停ノ義本日朝

書状キタル由也尔来種々盡力之~~未~~漸ク爰ニ

至リタルハ先ツ成果ト云フヘシ

六月廿二日 銀行無記事

六月廿三日 銀行無記事

六月廿四日 日曜也庭前 = 小桐三本植増ス○過

日三十(南殿)堀佐藤江伊達家々政規定并 = 佐藤管

業之事ニ付意見申入置キタル = 今日迄返事

不來稽ラクハ余輩ヲ不信ノ致す至リ依之右

盡力断リ之事ニ決意佐和江一書ヲ出ス又鈴
大ハ夕刻来リタル故右ヲ相談ス○遠藤庸吾
来ル

六月廿五日銀行朝渡邊幸兵衛肥前國忠吉ノ刀

持參被贈此刀ハ先考實保君愛セラ、ル所ノ

刀ニテ御自筆ヲ以テ子孫ニ傳ンコトヲ申置

タルモノナリ然ルニ小五郎右御遺書ニ背キ

他ニ出セスモノナリ渡邊氏數年登米ニ於テ

賣物タルコトヲ聞キ予ニ入レ保存セリト今

富田家秘藏ノ刀ナルコト聞傳ヒ居ル故余ニ

贈ラる高意尤可謝なり

○昨日伊達家不断之所置ニ付断リノ決心ニ

テ佐和江申遣候より横尾ニ傳リ同人来リ事

既ニ今日决着故依然盡カスヘシト来リテ談

話ナリ伊達亮宗来ル

六月廿六日 銀行

六月廿七日 銀行

六月廿八日 銀行讓堂へ伊達家々政規定草按指

出○小野寺姫来ル

六月廿九日 銀行○伊達從二位公江午後五時被

招佐和鈴木同行也然ニ急ニ指支トノ違約ス

華族ノ交際費ニ無禮十萬也

六月三十日銀行〇芳賀清工門江金貳拾月贈ル

(二字脱)

厚替書留郵便也右ハ兼テ金三十月ノ請求佐

々木長造ヲ申来リ居ル也〇夜竹内壽貞来ル

同人家事内談ス

(欄外書込) 六月九日・五月廿一日・六月廿五日上ニ〇・六月

廿五日上ニ「肥前國忠吉帰家」ト記ス

七月一日日曜朝橋本綱常ヲ尋金澤良齋ノ病症

ヲ問フ同人云フ今度ハ難治之症アリ親族朋

友等 = おゐて家族之所分方内儀專一と云フ

○乙骨ヲ訪フ勝先生不在夕刻帰ル南保来ル

病氣平偷(愈カ)ノ由也可驚可驚

七月二日銀行

七月三日銀行但木坂西人家跡再興特典ヲ以テ

被放免御沙汰之旨松倉ヨリ申来ル○ホイト

二一ヨリ内金五拾円返ル○高木来リ一泊ス

金二十七月公債証書用立ノ利子十月ヨリ半

季分来ル又金澤大病之事ヲ申談ス

七月四日銀行午後四時ヨリ真男急ニ引付吐瀉

あり腰湯氷ヲ以テ頭上ニ冷等種午當杉田老
 人速ニ来リ又橋本ニハ兩度遣シ候々剋ニ到
 リ困ケタル様ナレトモ發熱三十七度半夜ニ
 入り三十八度已上ニ登ル頻リト頭部ニ注意
 ス

七月五日真男病キニ付銀行断リ夕リ真男熱キ
 漸次退ク十二時過橋本来ル杉田ト相談ス今
 度之発病ハ食物不消化ヨリニテ他ニ故障ア
 ラスト
 夜佐和鈴木ト讓公御宅ニテ伊達家々政規定

内議ス

七月六日 銀行真男病キ追々快方ナリ大ニ安堵

也半日床中ニ遊ブ

七月七日 銀行造士義會ニ出席ス及川某ハ工部

大 学 校 一 年 生 ノ 貸 費 ニ 決 ス

七月八日 日曜讓堂公佐和鈴木来リ伊達家ノコ

トヲ議ス

七月九日 兩朝鈴木ト同道佐藤素拙方ニ行キ讓

公ノ内意ヲ傳伊達家財産維持書類草按渡ス

銀行例刻帰ル

真男病々全ク平癒ス

七月十日銀行夕刻杉田江禮ニ行ク

七月十一日朝染井樂山公暮謁^(基丸)ニ銀行夕伊達家

ニ集會鈴木佐和横尾ト共ニ伊達家財産維持

法方相談人ヲ被托ル

七月十二日銀行午後樂山公十年祭典ニ付慶岩

山邸ニ行キ拜ス○夕神鞭來ル

七月十三日銀行朝柴田隆夕刻伊達宗亮來リ一

昨夜伊達家維持法方調印ニ臨ミ實印云々ノ

事ニテ佐藤素拙憤怒去ラズ來リテナクサメ

吳レヨト云フハ佐藤ハ無識也只生來愚鈍ナ

ラサルニヨリ只實見ニ富ム者ナリ故ニ時勢

ノ動作人情妻態國律條理等ニ至リテハ真ニ

暗黒ナリ殊ニ老人ナレハ理由説明スルヲ得

ズニ依之夕剋同人宅ニ至リ大体申演ベ平和

主義ヲ以後來所辨セニストヲ説ク

七月十四日

七月十五日 銀行

七月十六日 銀行

七月十七日 銀行大町因幡伊達宗亮ヲ紅葉館ニ

招ク會主大名等リ會後伊達家ノ事ヲ申合セ
十時過歸ル

七月十八日銀行佐藤素拙宗基殿ヨリ使者トシ

乙過日來之禮ヲ速ブ

(帶尾車作)

七月十九日銀行夜橋東來リ佐藤保護之論ヲ主

張ス

七月廿日吉原ト申合本日休暇ス

七月廿一日銀行〇昨日岩倉右府薨去之報道あり

リ玄關ニ梅申入ル

七月廿二日日曜今朝松方大藏卿帰京ノ報あり

夕剋ヨリ相尋又本日者朝より来客終日也炎
熱如火

七月廿五日夕出立お縫真男同道箱根納涼ニ出
立又今夕神奈川ニ泊ス

箱根滞在中之記事ハ別ニ第ニ年箱根納涼ニ
集録ス(録九)

(欄外書) 七月五日・七月廿一日上ニ〇)

八月十一日午後一時箱根ヨリ歸ルお縫真男ハ

箱根ニ残ス

八月十二日日曜也朝吉原ニ行中留主中禮ヲ述

フ 松蔵ヲ見舞又金澤良齋未亡人ヲ訪ヒ悔ミ
 ヲ述ブ勝先生ヲ訪ヒ午後帰ル

十六年

九月廿日濱田姉君困窮ノ由故月金貳圓ツ、小

遣送ルコト申遣併テ金貳圓郵便ニテ送ル濱

田景長より金子借用之義申来ル断書状出ス

○橋本綱常ヲ訪フ医術進途ニ獨立一病院設

立ノ目的ヲ同人素志ナリト云フ

十月一日銀行錦戸右門今日ヨリ赤坂英和学校

ニ入ル

十月二日銀行〇玉川亀ヤのあい昨日より来リ

泊ス〇夕刻讓公御出佐藤専断ノ不平ヲ鳴サ

ル〇松倉恂より錦戸学費ノコト申来ル七八

圓ニテ間ニ合ハント申送ル

十月三日銀行〇西印ニ逢フ〇和田鏡三仙臺よ

り帰ル大條濱田姉君方蒲生和田方ニ同居ノ

又ト成ル從是月々雜費ヲ送ルコト決ス

十月四日兩銀行昨日竹内姉人ヲ橋本ニ診察セ

シム又同人本日鈴木大亮方ニ行キ泊ス〇札

幌松本ヨリ返書来ル鐵道會社ノ事也

十月五日兩銀行〇大蔵省ニテ吉村ト消却紙幣

ノコトヲ誤ス目賀田ニ逢フテ須賀川ノ事ヲ

批入〇金澤依批ノ公債証書十月送届クル〇
 造士義會之日ニ付出席ス明日定日ナレトモ
 明日ハ品川御邸ノ招キニ付今日之繰上ル〇
 吉田省一貸費否決ニ付松倉江書状出ス〇岩
 刈七圓為替来ル

十月六日土曜銀行吉原ト同シク合計七十五圓
 ヲ行員積立金ノ内江寄(贈)送ス〇午後品川新設
 落成ニ竹被招夕刻返ル〇多能来ル

十月七日日ヨ少〇朝大藏卿大久保利和トヲ訪
 不會〇勝先生ヲ訪レ夜ニ入り帰ル

十月八日大雨大風銀行朝六蔵卿私宅ニ行キ紙幣消却手續ノ事ヲ談ス

十月九日銀行

十月十日銀行仙臺田邊松兵衛来リ造士義會ニ

五十円寄送スト云フお常縁談ニテ来ル

十月十一日銀行

十月十二日銀行今泉おハスお縫ヲ見舞ヒ来ル

十月十三日銀行昨夜ヨリ大雨今朝ヨリ大風ニ

而快晴夜ニ入り全沈静岩瀧江書状出夜高七

来ル